

斯波千秋所長の体験に裏打ちされた「心のUD」の講義、大変感銘を受けました。「心のUD」と銘打っておりましたが、小生は「こころづくり」と「ものづくり」について示唆に富んだお話であったと感謝しております。

私は、「ものづくりは、人工物を良いデザイン（設計）良い流れで、自分・お客様及び社会に貢献する」という思想から発するものであり、「こころづくりは、ものづくりの基となる人間のあり様と共に行動することである」と思っています。

これは、一過性のものでなく地道に定着されて行くことであると推考しますが、社会・文化・思想・倫理・人権等複雑多岐な昨今での舵取りと、行動の絞り込みは大変な事であると考えます。

幸い浜松地方には、流入人口増により希釈になってきているとはいえ、「やらまいか」と共に、創造・革新・行動のDNAが脈々と受け継がれていると思ひ、官民あげて大いなる喚起が必要と考えます。

浜松市が全国に先駆けて、ユニバーサルデザインを条例化していることに拍手を送ると共に誇りに思っています。

課題の「あなたが、地域で、周りで取組めること及び考え方を述べなさい」について下記します。

UDの定義「年齢、性別、身体能力、国籍等人々が持つ様々な特性や違いを超え、すべての人に配慮して、心豊かな暮らしづくりを行っていかうとする考え方」を念頭に、「行き方の著しい変革期（人のみちの模索、温暖化対応、人の交通権向上、食の安定・安全性向上、石油依存からの脱却と省資源推進、高齢化社会と限界集落等への対応、倫理観の多元化 等）に在るのだ」の自覚をもとに、先ず自分を知り、実践を通じて更に感性を磨く様にしていきたいと意を強くしている所です。

その上で、会社人間を卒業後、10年余地域社会の各種団体長等をつとめさせて頂いた経験等を糧に、身の回りから身の丈に合った具体的テーマで、良い流れをつくる地道な取組みを実施していくと共に後継者選びを進めて参りたいと考えています。

このことが、地域まちづくり発展の一助になっていくものと信じています。

具体的には、「寺脇町たくみの会」（仮名）を立ち上げ、個別テーマを消化しながら発展させていきたいと考えています。

又 その活動等につき、折々に受・発信出来るように努め、同行の士を得ながら着実に進めていきたいと考えています。

（参考）寺脇町たくみの会（仮名）...会員みんなが、得手であり匠である。

対象：高齢者 楽しく・工夫し・皆が・伸びる会の頭文字の羅列。

UDのまちづくり、心のUDを進める上で、自身ができることや地域で取り組めることはどんなことか。

UDのまちづくりを進めるには、まず、市民がUDに関する知識、理解を得ることが必要です。そのために、例えば、道をつくる、公園をつくるといった検討、説明の場で、必ずそれに先立ちUDについての説明の場を設けるべきです。

また、市民もそれを他人事と思わず、理解しようとする姿勢が必要です。

まちづくりの例として、歩行者から考えると街路樹や休憩場所が街中にはほしいと思いますが、近くの人からは落ち葉やゴミで汚れたり、セミや鳥、若者が騒いでうるさいなどの苦情があると聞きます。それぞれの要求がぶつかり、互いに良いまちづくりを目指したにも関わらず十分な結果が得られなくなってしまうこともあるでしょう。

特に少数の意見、弱いものの意見は軽視されがちですが、UDを考えるときは、むしろそちらに重要な意見が含まれていることがあるかもしれません。そのような場面があれば、自分もその意見の意味を十分に聞いたうえで意見を述べたいと思います。また、心のバリアを無くすために、いろいろな機会を使って、様々な人と交流をすすめていきたいと思います。

地域でも、そこにある施設と要援護者などを把握し、不自由な点は無いか、ハード、ソフトで地域としてどう協力できるかを話し合うことが必要だと思います。また、そのための子供から老人、外国人、自治会に入っていない人も含めて、いつでもオープン参加でき、どんな話しでもできる場を設けておくことが必要だと思います。

UDについて、小学生がまちづくりセンター周辺で勉強していますが、中心市街地だけでなく、地域でも中学、高校生、大人と一緒に勉強できるようになってほしいと思います。昨年、伊平小学校が「ぼうさい探検隊マップコンクール」で大臣賞をとりましたが、このような視点から地域を見直すことが大切で、これがUDのまちづくりへの市民参加の手本の一つだと思います。

講座を受けて、思い出したこと。

以前駅前広場の設計業務があり、設計担当者と点字ブロックの設置位置について、話しをしたことを思い出しました。

その内容は駅前広場歩道部に、シェルターが計画され、その限られたシェルターの幅の中、「どのような位置に点字ブロックを設置すればよいのか」ということでした。

雨に濡れにくいことなどを考えると基本的に中央がよいと思うのですが、バスの乗車を待つ方々に動線を遮られるのではないかと、端にすれば雨の問題、支柱の問題などあったように思います。どんな結論になったか覚えていません。

また、点字ブロックの輝度を少しだけ、明るくしたという話もありました。しかし、その明るさもいつまで、維持できるのでしょうか、点字ブロックの寿命は、製品の劣化でしょうか、輝度の維持でしょうか。

これらの設計は机上でマニュアルだけで行っていたと思います。施工者は、一番にデザイン、次に経済性でしょうか・・・すべてに理想的なものはできませんが、やはり利用者の視点、必要な人にとって使い続けるための視点を取り入れる必要があると思います。

講座を受けて、何もしてこなかった自分がいました。

私自身、今、障害を感じていません。しかし、少し、年齢を重ねれば、また、不慮な事故に遭うことも考えられます。そのように考えると、「一緒に生きていくことが難しい世の中である」という言葉が重く感じ、自分自身の心を変えていかなければならないと思います。

今まで、私は同情《失礼な言い方で申し訳ありません》するだけで、避けてしまってきた、声をかけることもできなかった。でも、先日の講義で教えていただいたように、「断わられたときに返す言葉」、「どこに立ち、何を、気をつけ、サポートすればいいのか」、このような講義を聴くこと、訓練すること、それを繰り返し行うことの必要性を感じました。

最近防災に関する訓練は町内会をはじめ、会社でも行われています。これと同じように、「一緒に生きていくことができる社会づくり」として、町内会、会社などでも、実践する必要があると思います。

我々の時代にはなかったですが、今の子供たちはすでに学校で行っているようです、義務教育期間だけでなく継続していくことが大事であると感じます。

また、物質的な改善に比べ、ひとりひとりのこころの問題は時間がかかりますが、我々社会人も、いまからでも遅くない、このような機会が今後増加するよう期待します。

まちづくり人材育成講座(第9回) 課題 ユニバーサルデザインについて2

ユニバーサルデザインのまちづくり・心のUDを進めるにあたり、2つの支店で考えていきます。1.個人でできること、2.制度、機能、施設など、大きな金額、機関が動いてできることです。

1.の個人としてできることは、ユニバーサルデザインのまちづくり、心のユニバーサルデザインの考え方を身近に関わる人に話すことです。また、多様な人と会っていく中でそれぞれの人が困っていること、思っていること、を聞き出すことです。

次に

2.については個人で決定や運営ができることではないのですが、1.で聞き出した、困っていること、思っていることを伝える場所があればいいと思います。そのため情報を汲み取る機関があることを望みます。

私個人として難しいと感じていることは一人一人が「できること、できないこと」を見つけることです。やはり生活で不便を感じている人を一くくりに「できない人」としてとらえてしまいがちだからです。

どうしていったらいいか、困ったら誰に聞いたらいいか、やはりガイドラインを誰でも見て考えられる環境があればいいです。